

仙 台 教 区 報

カトリック仙台司教区事務所
〒980
仙台市青葉区本町1丁目2番12号
☎ 022(222)7371
FAX 022(222)7378
編集・発行 板垣 勤

第2回福音宣教推進全国会議（ナイス2）

教 区 代 表 者 と と も に 歩 も う

開かれた教会を目指して始められた福音宣教推進全国会議（ナイス）は日本の教会にとって新しい動きです。10月にはナイス1の精神を受け継いで、全国から代表者が長崎に集まり会議を開きます。

ナイス2はナイス1を振り返り、今後の教会の新たな動きを作ることを目指し、それは信徒からも期待されています。このため、全国各地では分かち合いを中心にしていろいろの動きが展開されています。

仙 台 教 区 の 動 き

福音宣教は日常生活でこそ実りを期待できると、あらためて気付かせることになるナイス2への準備は仙台教区でも進められています。教区ナイス2準備委員会は各小教区に、家庭をテーマに分かち合いを続けるよう働きかけています。

仙台教区のナイス2への準備は、教区準備委員会が中心に進められ、6月8日には代表者と準備委員会のメンバーが第1回目の集りを行いました。（写真）

集いは「ナイスは会議というよりも福音宣教の運動と捉えたら分かりやすい」との佐藤司教の話聞くことからはじめられました。それから、小教区での話し合いの報告をもとに、代表者が分かち合いを大切にしているナイスの精神を知り生かすため、分かち合いを理解し深める学習をし、みんなで実際に分かち合いをしました。

代表者の集いは秋にも開かれ、仙台教区としてナイス事務局への意見などを取りまとめます。

分 か ち 合 い を 深 め よ う

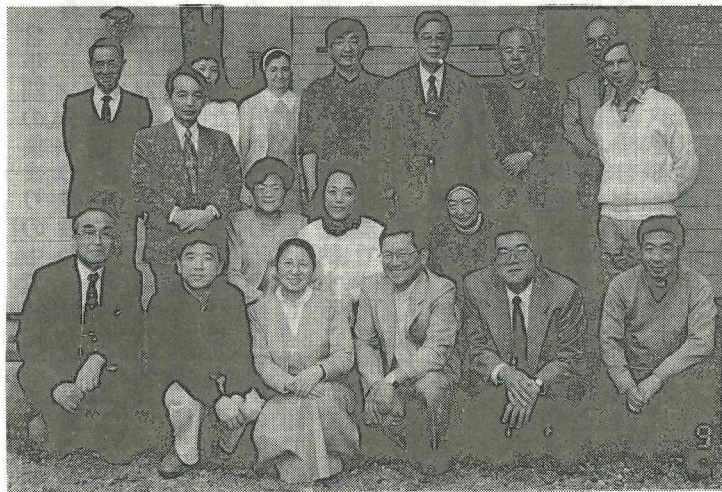
教区内には分かち合いの進め方が分からない、小教区の全員が分かち合いに参加できない、ナイス2とテーマの意味が分から



ないなど、分かち合いを進める難しさを訴える悩みの声も各地から聞こえています。しかし、教会と社会の現実をそのままに見て、分かち合いを理解し、進めることがナイスの精神そのものです。分かち合いをナイス2に限定しないで「みんな」で、工夫を重ね続けていきましょう。

参考文献「豊かな分かち合いのために！」

小教区にあります。



仙台司教区センター
第6回総会△云報生口

仙台司教区センター建設委員会総会が6月13日に、仮使用中の教区センター2階会議室で開かれました。この総会は建物の完成を間近にした最後のものです。

はじめに設計事務所から工事経過報告を聞き、委員たちが建物の見学をしました。報告は工事が当初の完成予定時期から遅れていること、しかし、7月24日の献堂式には間に合うというものでした。

次に、会計担当者から建設資金収支状況報告があり、資金計画予算に修正があり約8億6千万円となったが、小教区などからの建設資金の納入がほぼ順調に進んでいるので、事業完了までに支払いができる見込みであることが報告されました。この報告は質疑の後に承認されました。

最後に佐藤司教から、建設委員と建設に関わっているすべての人に感謝のことが述べられて総会は終了しました。

この後は、献堂式の準備と教区センターが開かれた教会にふさわしいものとして、教区内外の人々の期待に応えて運営できるように、種々の準備作業がさらに進むこととなります。



司牧評議会議△云に
参加して

相良 ヒロ子 (原町教会)

私は1991年9月23日より、2年間の任期で仙台司教区司牧評議会の一員として年2回(春分、秋分の日)の定例総会に出席してまいりました。司教様をはじめ司祭修道者、信徒(各県の信徒会長、副会長)の各代表の方々、そして、司教直任として青年2名、婦人2名のうちの一人として会議に参加させていただきました。

司教様と親しくお話しするなど、私には遠い存在のように思っておりましたので、とても緊張しておりましたが、司教様を助けてくださっている神父様方、皆さん優しくて、お話しもよくわかり安心して参加させていただきました。司教様は終始目をつむり、皆さんのお話しに耳を傾け、時々話が混線してくると、ご意見を述べておられました。

実は私、今にして思いますと、この司牧評議会の集まりに13年前と3年前の2度にわたり教会から出席するようにとの突然の指示があり、何もわからないままオブザーバーの形で参加しておりました。13年前から今回の参加が準備されていたのかと思うと、小さな教会を思われる神様の配慮に胸の熱くなる思いをかみしめています。

2年間の集まりの中で特に大きな問題は教区センターの建設と一粒会の見直しをあげる事ができます。教区センターも今年の7月24日に献堂式を迎える運びになりましたが、担当された皆様方、本当にご苦勞さまでした。原町教会もバザーでの収益金や、一月月々500円の建設資金の納入を信徒の皆さんにお願ひして、2年間で建設費の割り当て額を完納することができました。原町から仙台まで比較的近いのですので、今後教区センターで行なわれる種々の活動に皆さんで積極的に参加して、意識の高揚に努めてゆきたいと思ひます。

また、一粒会の問題は2年越しの討論の末この3月に結論ができました。司祭召命の問題は教区民あげての一番の願ひです。今後、司教様を中心に信徒たちの活動しやすい体制が出来たと思ひます。皆で力を出し合つて行きましよう。

現在、私たちの教会は、毎月「分かち合い」の日を決めて意見を交換しあい、教会を愛する人の輪を広げて行きたいと思つております。

聖パウロ書院 新築開店

教区センターの工事に合わせて、新築工事をしていた聖パウロ書院は、5月29日に新装開店しました。

一情一報

「正平協働」って、なに？

平賀 徹夫神父



「福音に基づく社会に関する教会の教えに従い、社会における正義と平和の実現、とくに基本的人権の擁護の促進につとめることよって、キリスト者としての社会的責任を果たしていく。」

ちょっと固い表現ですが、これは「カトリック正義と平和仙台協議会」、通称「仙台正平協」の規約に掲げられている会の目的です。

カトリック信者として、つまりキリストの弟子として、福音を基盤とする教会の教えに従って、イエスが生きたように生きたい。これが基本です。そして

(1) 人間を大切にする社会を建設する。

(2) 特に貧しい生活をよぎなくされている人々や、差別を受けている人々と共に生きる。

(3) 世界中の人々と、人類愛に基づいた兄弟的一致を深め社会刷新を遂行する。という考え方を尊重して、社会的責任を果たして行きたいと望んでいます。

以前、正平協なんか教会の中の団体ではない、などと言われたりした時代がありました。きつと、それまでの（そして現在もまだまだ強く残っている？）「信仰感覚」

や教会活動というものの理解からすれば、あまりにも社会問題に踏み込んで見えたり、政教分離という原則を超えて政治活動をしていると見えたりという活動や問題の取り上げ方を、という印象によるものでしょう。洗礼を受ける前に勉強した「公教要理」にも確かに社会正義

（社会に対して教会信者が果たすべき役割）が言及されていた筈ですがほとんど強調されずに、慈善活動や人知れず行なわれる愛徳のわざという程度で、言葉は悪いですが、「お茶を濁して」いたといえます。

教会の姿勢としては「いきり社会（世界）に対する責任を打ち出したのは第二バチカン公会議でした。「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に、貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみとくるしみでもある。」との言葉で、公会議の「現代世界憲章」は始まります。まさに「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。（ローマ12・15、16）」ということですが。そこには、「その人は信者だから」、「信者でないから」などという区別はありません。みな神の子です。

公会議後間もなく、パウロ六世教皇は全世界の教区に「正義と平和委員会」を設けるよう呼びかけました。それに応えて日本

では1971年に司教協議会のもとに「日本カトリック正義と平和協議会」が作られました。仙台ではまだ教区としての正平協とはなっていないませんが、1977年に有志が集まって発足し、冒頭に引用した規約の目的を少しでも実現できるよう活動している訳です。

仙台正平協の活動として四点掲げられます。

(1) 地域住民が抱えている問題と積極的に取り組む。

(2) 教会内外から提起された諸問題を検討し、適切な活動を行なう。

(3) 教会内外に正しい情報の伝達と広報、普及活動を行なう。

(4) 必要に応じて、教会内外の他団体との連帯、協力活動を行なう。

誰の目にも明らかのように、現代の社会には人間、特に弱い立場に立たされている人が大切にされているとは到底言えない問題が沢山あります。以前からの問題は解決されず、逆に新しい問題が次から次と現われてきています。古くて新しい問題、たとえば滞日外国人に対する指紋捺捺制度（まだあるのです！）は、人間を大切にするためにでしょうか。たとえば人間がここ以外に住めない地球の環境問題、ゴミ問題……を放っておいていいのでしょうか。世界各地で起こる戦争と苦しんでいる難民の問題に黙っていられるのでしょうか。人間として生

きる基本である生命の問題（死刑制度）や信仰の自由については、今のままでいいの
でしょうか。数えあげればキリがありません。
増えこそすれ減ることはないのです。

しかし信者でない人々も、いろいろなグ
ループを作って活動しているのを知ること
は心強いことです。そのような人たちとも
協力しあいながら、仙台正平協は少ないメ
ンバーなので細々（？）とではあっても、
着実に進んで行こうとしています。そして
キリストの弟子として生きるために、もっ
ともっと目を開いて社会的な責任を果たす
ことを目指すのです。

各教会に正平協からの通信やお知らせが
届きましたらどうぞ目をお通しください。
そして可能ならば一緒に活動できたらよい
と願っています。また今後とも直接・間接
のご協力をお願いします。

仙台白百合学園

創立百周年を祝う

一万六千人あまりの卒業生を世に送り出
した仙台白百合学園は今年創立百周年を迎
えた。戦争によって全ての校舎を灰塵に帰
した学園は長い苦難の道を歩んで今日に至
ったものである。

フランスから最初のマスを迎えて始
められた学園は仙台市内で多くの人から慕



われる学校として、幼稚園から高校、そし
て市内泉区には仙台白百合短期大学を設け
た一貫教育を行っている。

7月2日には創立百周年を祝い、記念感
謝ミサ・式典、祝賀会があり、会場となっ
た仙台サンプラザは生徒、職員、マースル
同窓生、恩人、本間知事などの招待者であ

ふれた。感謝ミサは佐藤司教が司式し、25
名の司祭ともに行われた。説教は東京教区
の森司教が行ない、学園が大切にしてきた
精神に光を与え、学園に関わったすべての
人に喜びと感謝の気持ちと呼びさます話し
は出席者に感銘を与えた。

百周年の記念行事は12月まであり、磯村
尚徳さんの講演会やイ・ムジチ合奏団の記
念演奏会が予定されている。

仙台白百合学園は「広がる愛 未来へ」
のキャッチフレーズのもと、新しい百周年
に向けて歩みはじめたが、平成10年には住
み慣れた本町から泉パークタウンに全面移
転することが決まっている。今後のさらなる
飛躍が期待される。

聖書講座テキストの案内

共同体のための聖書講座「水の上を歩
いて」のシリーズ第一号「わたしのガ
リラヤわたしの民」が音響映像グルー
プメディアセンターから発行された。
内容は激動の世界に生きるキリスト者
がテキスト（千円）とビデオを使い、
世界の現実がどのようになっているか
を、私たちがキリストの目と耳となっ
て捉え学ぶものです。
聖パウロ書院で取り扱っています。

教会の事業の現場から

現実を見つめ、

眞実を選び・・・

佐藤 大（会津若松教会・会津若松ザベリオ学園高校）

大宇宙の法則から微生物の生理に至るまで、人間はあらゆる領域の科学の進歩の中で、実にたくさんの法則を発見し続けて、それを生活や文化や戦争に利用してきた。いわば、その法則のおかげで、人間にはあらゆる種類の豊かな恵みがもたらされている。雨季乾季や春夏秋冬も、植物のつくる酸素も、電気エネルギーの生成も、何もかもが、人類の歴史が発見した法則によって与えられているものである。しかし、人間が造り出した法則は何ひとつない。この恵みの源である、地球と宇宙を縦横におおっているあらゆる種類の法則にこそ、神の存在を見るのである。

一方、利己心、欲望、自己中心、邪推、憎悪、嫉妬、恨みなどは人間を争いに導きあるいは戦争を引き起こし、ついには人の心と社会と世界を破壊に陥れるが、謙譲、協調、思い遣り、愛などは人と人との和を生み、心の住みやすい社会をつくり、世界の人々の痛みや苦しみの理解と共感につながる。即ち、人間社会を望ましく成長させ

る法則は、他への理解や共感、思い遣り、愛などである。

しかし、人間には自由意志があり、自分の住む世界をどのようにつくるかは、自分の心に任せられているので、その弱さから目先の現実のみを見て判断してしまうことが多い。そしてそのことが、時に人の心を不幸にし、社会を混乱させる。実は人間に自由意志のあるところが神に似せてつくられたとするゆえんであるということが、理解できる。そこにキリストという証人がいる。即ち、その自由意志によって、単なる被造物ではなく、神との相互愛の関係の喜びをつくることを、人間が自ら選択できるためである。そのことが住みやすい心の社会をつくることにつながる。

地方の小都市のカトリック学校に勤務して二十七年を経過したが、私のしている仕事は「法則」という名によって人類に与えられている膨大な恵みを、学習材料として授業その他を通して生徒に与え、自由意志を持つ人間が、住みやすい心の社会をつくるために何をどのように選べば良いかを考えさせながら、愛という法則に気付かせていつの日か実践できるように土台をつくること。この二つである。

カトリック学校の福音宣教の使命をよく問われる中で、その地域との係わり、「市場価値」の高揚、宗教教育の実際などがよく話題にされる。もちろんこれらの事柄を

無視するわけにはゆかない。一つひとつを現実の問題として見つめ、解決や改善のために対座しなければならぬ。しかし、現実のみに振り回されて眞実が見えないのは困る。カトリック学校の公教育と異なるところは「現実を見つめながら眞実を求め続ける」という一点であると考えられる。そこにカトリック学校の、あるいはカトリック教育の普遍性もある。

自分の意志でこの世に生まれた人は全くいない。気がついてみたら、苦勞を背負いながら人間社会を歩いていたのである。だからこそ、生きてきて良かったという心の交わりの幸せを、誰でもが出来るかぎり多く持つことが大切である。カトリック教育を通して、法則によって支えられる膨大な恵みと、神と人、人と人との相互愛による喜びを、日々の生活の中で感じながら生きて行ければ、これ以上のことはない。

生きてきたことを本当に喜べるように、与えられた生徒たちと、その向こうにいる父兄たちと、そして、その学校のある地域社会に「恵み」と「愛」を伝え続けることが、日本全国に「派遣された」カトリック学校の唯一の使命だと考える。現実を見つめながら眞実を選択して心の社会を生きる人々の出来るかぎり多くなることを祈ります。



ともに生きる、とは

赦し・・・

ある聖人からの呼びかけ



ローマに近いフェリエールの農家にアスタ・ゴレットティという寡婦が7人の子供と暮らしていた。子供の中でも12才のマリアは、近郷でも評判の信心深い娘で、初聖体のとき処女を守って生きることを神に誓っていた。

ある日、近所の知り合いの若者アレックス・ドローが乱暴するためマリアを襲い、マリアは神への誓いを守って殉教の道を選ぶことになった。翌朝、傷ついて入院していたマリアは、御聖体を運んできた司祭に「私を殺そうとした人が、いつか天国の私のところに来てくれるように願います」と言っ

て事切れた。
殺人犯アレックス・ドローは刑務所で最初は反抗的だったが、その後、模範囚となり30年の刑期満了前に釈放され、庭師となって修道院に引きこもってしまった。

あるクリスマスに、彼は年老いたマリアの母を訪ねて「お嬢さんは私を赦してくださいました。あなたも赦してくださいませんか？」と問いかけた。それに対して母は「私もあなたを赦します」と答えた。

1950年、聖ペトロ大聖堂でマリアの列聖が厳かに宣言され、そこに集まった人

の中にはマリアの母と殺害者アレックス・ドローの姿があった。

二人の間に何が起きたのでしょうか？

マリアの母アスタが悲嘆にくれアレックス・ドローを憎んでも、愛する娘マリアの中には赦しの心しか見ることが出来ません。マリアを見るとときその向こうには十字架の上で罪人をなおも赦そうと祈るイエスの姿が見えてきます。

母はアレックス・ドローの赦しの願いを受入れることがマリアの望みであり、イエスの望みであることを知りそれに従います。アレックス・ドローも、マリアの言葉によってイエスの赦しの大きさを感じるようになりました。

その時、犯罪によって分断されたマリアの母とアレックス・ドローの人としての絆は、イエスを仲立ちとして回復されます。そして、マリアの求めに応えることで回復された二人の絆は神への賛美へと高められます。

どんな犯罪であれ、それは共同体の中の相互依存性を破壊します。

では、どのようにしたら被害者と加害者との人と人の絆を回復することが出来るのか。マリアはこの問題に新しいビジョンを与えてくれます。

犯罪の結果、加害者はもとより被害者側も孤独に捨て置かれます。マリアは確信しています。アダムの子である私たちが犯罪

者であっても孤独のうちに閉じ込められたままではよくないこと。犯罪者を共同体から排除することが、共同体の相互依存性を回復する唯一の道ではないこと。また、罪を犯した人が罪の重荷に打ちひしがれ世間から白眼視されても、己を呪う人たちの絆を保持あるいは回復することが必要だと。

マリアは犯罪者の個人的罪を否定するのではなく、一つの部分が苦しめば全ての部分が共に苦しむことを伝えます。

愛する者を突然奪い取られ、自らは悲嘆にくれ憎悪と復讐の思いをもち、さらに世間の好奇、同情の入り混じった視線に晒されている家族との絆を私たちも保持するようにと勧めます。というのは私たち自身も罪人の一人として、共同体の一員の責任を担うべきであるから。

このようにして、構造的罪の一端を担っている私たちの罪が明るみに出され共同体の相互依存性（人と人の絆）を回復する道へ導かれます。そして、加害者と被害者との絆の回復のために働くことは、構造的な罪に対する私たちの償いの業であることが明らかにあります。

マリアは、死刑制度を含む刑罰制度全般について、また赦しの秘跡が構造的罪により分断された共同体の癒しと回復のために果たしている今日の役割について、不思議な光で照らしています。



アムネスティを 「ごぞんじですか」



アムネスティ・インターナショナル
日本支部 362(六葉)ズグループ

安達 博子

「旧ユーゴスラビアの民族間の争い、ミャンマーの軍事政権による弾圧……途方に暮れませんか」と問うたのは、今年一月に来日したロス・ダニエルさん。アムネスティの国際執行委員長である。知人によると「実務家」らしい彼は世界の不況のあおりでアムネスティの活動費が今年3億6千万円もの収入減が予想され困難な今、アムネスティがどのように活動していくかを意見交換するため来日したのだ。

地球規模で環境破壊が加速していくのと共に、日々深刻化しているにも関わらず、国家の枠の中に閉じ込められ「見えない」ものにされている数多くの踏みにじられた人々。信仰、考え方、民族が違うだけで何年も拘禁されている良心囚。

アムネスティは1961年イギリスの一人の弁護士が『オブザーバー』紙にこのような人々のことを投書したことに共鳴した人々によって始められた市民運動だ。個人の参加による会員は世界中に140万人。日本では9千人。誰でもどこにいてもできるため、様々な人々が自分の生活に合った

形で参加している。

政治的中立を保ち、世界中の市民からの浄財によって支えられているアムネスティ(恩赦の意味)は1977年、ノーベル賞を受賞した。

140万人ものアムネスティの会員はいったいどうなふうにして活動をしているのか。活動の目的を①良心の囚人の釈放②軍事政権などによって作り出される政治囚に国際的な基準に合った公正で速やかな裁判を求める③どんな場合にも拷問と死刑に反対する④軍や民間の武装集団による失踪と政治的な殺害を無くすことに絞っているの(働きかける相手はどうしても各国政府になります。いちいち会いに行きませんか)らもっとも一般的に行なわれている方法は手紙を出すことです。手紙で人間の尊厳を侵すのは良くない、と訴えるのです。

声すら上げることができない人々に代わって名も無い私たちが、世界の片隅から声を出すことは想像以上の国際的圧力となり「ゆっくりと勝利しているのです(ロス・ダニエル)」。

日本支部が活動して20年、439のケースに取り組み345の釈放を得ました。

東北には11のグループと約400名の会員がいます。日本全体から見ると会員数も少なく活動も決して活発だといえる地域ではありませんが、各々の地方にしっかり根をおろした小数の息長い活動をしている人

たちがいることは確かです。

宮古ではカトリック幼稚園の先生方と教員とが、毎月200円ずつ出し合って葉書を出しています。盛岡では四ツ家教会を中心に毎年春と秋、教会の婦人部がアムネスティのためのバザーを盛大に行なっています。中には何年も葉書を出し続けている人もいます。八戸では最近小中野教会の会員が加わり賑やかになりました。高校生から50代までの人が様々なテーマで学習会をやり、タイの男性の救援活動も2年目。弘前と青森では弘前大学の学生と市民が協力してロシアの死刑囚の原形、ミャンマーのアウンサン・スー・チーの自由を求めるための署名。冤罪の那須隆さんの講演会や募金のため東奥義塾でチェンバロのコンサートなど広く活動。また、仙台や福島でも様々な会員が活動している。



《活動への参加、支援協力、

資料の請求は次のところまで》

東京事務所

169新宿区西早稲田2-3-2 第3山武ビル

東北方面の方は

80091仙台中央郵便局 私書箱107号

寄付金送金先

郵便振替 東京2133351

アムネスティインターナショナル
日本支部

仙 台 司 教 区 統 計 (1992. 1. 1~1992. 12. 31)

面積 45,945.78Km² (青森・岩手・宮城・福島)
 総人口 7,288,614人
 信徒数 12,255人 (滞日外国人は人数が把握できないため未算入)

信 徒 数	教区外	8	青 森	809	岩 手	716	宮 城	1,682	福 島	1,191	計	4,406
	男											
	女											
	計	8	2,326	2,016	4,721	3,184	12,255					
秘 跡	洗礼 (幼児)		8	26	46	28	108					
	(成人)		34	27	45	44	150					
	堅信		36	38	48	4	126					
	結婚 信徒			2	4	1	7					
	他宗教者		14	15	39	9	77					
	(他宗教者同土)		38	115	78	67	298					
教会			12	14	17	14	57					
巡回教会			2	2	3	4	11					
集会所			3	1		1	5					
男子修道院					1		1					
女子修道院			8	4	14	6	32					



司祭不定住
教会

釜石、千厩
大船渡、角田
勿来

教区司祭

司教 2人
司祭 30人
神学生 3人

宣教会、修道会司祭

外国人司祭 41人
" 神学生 3人

修道者

邦人修道士 3人
外国人 " 2人
邦人修道女 286人
外国人 " 33人
修練女等 9人

教会学校、要理・聖書研究

	男	女	計
幼児、小学生	358人	480人	838人
中学生	65人	93人	158人
高校生以上	148人	460人	608人

社会事業

病院	1	132ベット
診療所	1	5,000人
老人ホーム	5	300人
精薄児・者施設	4	79人
養護施設	5	328人
保育園	9	595人

教育事業

短期大学	3	1,657人
専門学校	1	64人
高等学校	8	6,410人
中学校	6	1,311人
小学校	8	1,895人
幼稚園	51	8,262人

一般事業

センター・会館	4	32,544人
学生寮	1	9人
音楽教室	2	2,616人

